

南山城村の資源を見直し ウォーキングコースを活用したイベントの検討

大阪国際大学
経営学科スポーツビジネスコース
横山誠ゼミナール

これまでの活動

南山城村との関係性

- ・2009年…村づくりフィールドワークがスタート ⇒ 2013年に包括連携協定の締結
- ・2018年…1(ひと)まち1(ひと)キャンパス事業スタート ⇒ 成果物としてMAPを作成
- ・2020年…**人・まち・キャンパス連携支援事業** ⇒ 3カ年計画として実施

2021年度 取組み目標

ウォーキングコース拡張と資源の見直し(ビジネスの可能性を探る)

- ①トライアルイベントの実施…新ルートの開発と地元関係者との意見交換
- ②地域活性化、認知度向上…オプションプログラムや村内アクティビティとのコラボレーション
- ③イベントのマネジメント……トライアルイベントの企画立案

2017年	2018年	2019年	2020年度(1年目)	2021年度(2年目)	2022年度(3年目)
11月 村の活性化提案	4月 南山城村との検討スタート	3/5 村長報告 2コース提案	3/29 シニアトライアルウォーク	3/4 ウォーキングMAP完成	
活動開始					
ウェルネス ウォーキング現地開催 <ul style="list-style-type: none"> ①日本ウェルネスウォーキング協会指導者養成講習会実施 ②村内関係者(参加者)との交流 				観光事業者と連携 地域資源の見直し <ul style="list-style-type: none"> ①地元観光事業者とのコミュニケーション ②地元資源の再認識による付加価値の再創造 ③トライアルイベントの計画と評価 ④多様な展開(ウォーキング以外) ⑤面展開への可能性 	ビジネス化 に向けた準備期間 <ul style="list-style-type: none"> ①地元関係者との協同作業(コース整備) ②トライアルイベントの実施(学生企画) ③アクティビティ開発 ④イベントマネジメント及び効果検証 ⑤学内関係者の拡充(観光分野)
コロナ禍における 実施可能性の検討 ヨガ(インスタクターによるレクチャー)・PR動画による認知度向上					ビジネス化に挑戦 <ul style="list-style-type: none"> 【地域課題】 ◇文化・観光体験の更なる開発・拡充 【PBL】 ◇ウォーキングコースパッケージドプログラム 【ビジネス】 ◇トライアルの拡充とビジネスプラン検討

2021年度活動の概要

取組み目標

ウォーキングコース拡張と資源の見直し(ビジネスの可能性を探る)

- ①トライアルイベントの実施・・・新ルートの開発と地元関係者との意見交換
- ②地域活性化、認知度向上・・・オプションプログラムや村内アクティビティとのコラボレーション
- ③イベントのマネジメント・・・トライアルイベントの企画立案

前期

後期

ビジネス化に向けた意見交換や情報共有

具体的な取り組みからビジネス化の検討

①南山城村への 2020年度計画説明

- ①取組目標説明
- ②懇談・意見交換
- ③事業承認

②自然の家閉鎖に 伴う新ルート開発

- ①新ルートの計画
と実地踏査
- ②新ルートの開拓

③地元関係者との意 見交換と協働作業

- ①地域課題再認識
- ②地元資源再確認
- ③協働作業

④トライアルイベント 村内アクティビティ

- ①他学科ゼミ授業
(地域スポーツゼミ)
- ②レジャー関連の
演習授業(学外授業)

⑤ 報告会

- ①京都府合同報告会
(6大学9チーム)
3月22日(火)実施
- ②村長報告会
3月25日実施

⑥成果物の完成と プログラム開発

- ①MAPリニューアル
- ②パッケージドプロ
グラムの開発

学生・教職員による活動:9回

プロジェクトミーティング:4回

トライアルイベント:3回

延べ120名が参画

活動目標に対する具体的な取組み(前期)

新ルート開拓

南山城村自然の家閉鎖に伴う新ルート開拓

目的: 観光促進の拠点(ランドマーク)の検討



合同会社南山城観光へ繋がる新ルートの開拓は道しるべをつけながら慎重に行った。

地元関係者との意見交換

合同会社南山城観光とのコラボレーション

目的: 村内唯一の観光事業者や地元協力者とのネットワーク拡充



コロナ禍でもあり、最初はオンラインミーティングがらスタートしたが、対面での意見交換も実現した。

トライアルイベント①

南山城村における文化の理解と資源開発

目的: 地元文化や特産品の体験観光の可能性の検討



地元の文化でもある投網に関するミニ講座、茶摘み、手もみ、試飲など体験観光プログラムを実施した。

活動目標に対する具体的な取組み(後期)

トライアルイベント②

本PJ学生による企画
学外授業(スポーツ・レジャー演習)

目的:学生(若者)のマーケティング
リサーチ



学生企画:茶畑を眺めながらの**モルック体験**(上)と
ウォーキングコースでの**フォトコンテスト**(下2枚)

コース内の階段・道標設置

ウォーキングコース内の
安全と質の向上

目的:一般向けイベントに向けた
コース整備、リスクマネジメント



京都きづ川アクティビティキャンペーンに向けてのコー
ス整備とリスクマネジメント

MAPリニューアル

南山城村森林ウォーキングコース
MAPリニューアル

目的:マイクロツーリズム、アフター
コロナに向けた情報・広報媒体



ホテル(マリオット)支配人や道の駅社長には承諾済
みであり、今後多くの方が活用してくれることを願う。

活動目標に対する具体的な取組み(後期)

トライアルイベント③

京都きづ川アクティビティ キャンペーンへの参画

目的: イベントマネジメントの経験から
ビジネスの可能性を探る



コロナ禍でなかなか取り組むことができなかった一般
の方向けのイベントに参画することができた。

3つのエリアで展開する充実のプログラム!

木置川カヌースクール / ボルダリング・トレッキング体験 / 高尾山バワイヤースポットめぐり / マウンテンバイクスクール体験とハーブ体験 / 高山ダムカヌー・遊歩道ツアー / 紅葉体験アート体験 / 高山ダムカヌー・遊歩道ツアー / 自然を感じる健康ウォーキングとビザ作の体験

アクティビティカレンダー

1月	2月	3月
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
10	10	10
11	11	11
12	12	12
13	13	13
14	14	14
15	15	15
16	16	16
17	17	17
18	18	18
19	19	19
20	20	20
21	21	21
22	22	22
23	23	23
24	24	24
25	25	25
26	26	26
27	27	27
28	28	28
29	29	29
30	30	30
31	31	31

京都きづ川
アクティビティ
キャンペーン
2022年1月~3月

嵯峨町 和束町 南山城村

2つ以上のアクティビティ体験して
次回使える優待券がゲット!

期間限定! 事前申込みで通常よりもおトクにアクティビティを体感しよう!

木置川カヌースクール / ボルダリング・トレッキング体験 / 高尾山バワイヤースポットめぐり / マウンテンバイクスクール体験とハーブ体験 / 高山ダムカヌー・遊歩道ツアー / 紅葉体験アート体験 / 高山ダムカヌー・遊歩道ツアー / 自然を感じる健康ウォーキングとビザ作の体験

相楽東部「ひと・企業」誘致促進協議会

TEL.075-411-0831

イベントの評価(アンケート結果)と学生のふりかえり

【感想と満足度】(参加者)

- ・回答者の42.1%は南山城村初訪問であり、26.3%は訪問回数が5回以上であった。(午前:6家族、午後4家族)
- ・感想、満足度共に回答者全員が最高評価であった。(n=19)
- ・ガイド(学生)に対する評価でも、全員が最高評価であった。
- ・親切、気配り、気さく、等のワードや明るい方で盛り上げてくれたので子供も楽しめました等の評価を得た。

【ウォーキングコースの評価】(参加者)

- ・歩きにくい(6.7%)、少し歩きやすい(26.7%)、とても歩きやすい(66.7%)であった。(n=15)
- ・今後、家族や友人など誘ってまたこのコースを歩きたいかという問いでは、少し思う(6.7%)、とても思う(93.3%)であった。
- ・もう少し整備が必要、木が倒れていたり坂が急で楽しい、良い高低差でした、他の季節も歩いてみたい等の意見を得ることができた。

【ふりかえりシートより】(学生)

- ・自分たちがしてきたことの説明をして参加者に関心を持ってもらうことができた。
- ・イベントが終了して参加者の方々が帰られる際に、担当した家族の皆さんからお礼と応援の言葉を頂いて自分がしてきたことの自信に繋がった。
- ・歩きにくい所も、自分たちのアレンジで階段などを設置したことで、参加者の方も歩きやすいなどの高評価を頂いたことから、その点では本当に頑張った良かった。

【今後の課題】(学生)

- ・イベントマネジメントの経験値やコミュニケーションスキルの更なる向上。
- ・要望にお応えして、四季折々の自然を感じられるイベントの実施を検討。
- ・コース内にトイレがないので、事前確認の徹底が必要。
- ・コース内に休憩スペースやベンチやを設置する。
- ・道標をゲーム感覚で楽しめる内容にアレンジする。
- ・道標を増やす事や示し方をもっと工夫する。
- ・更なる整備と安全管理等の確認を行う。

今年度の評価と今後に向けて

昨年示した 課題

1. ウォーキングMAP(活用)と連動したウォーキングコースの活用促進
 - ①「マリオット」「道の駅」利用者などへのウォーキング周知
 - ②コースPR推進・・・MAPの村内設置 大学SNSや学生SNSによる拡散
2. コース補修・維持活動の継続
 - ①定期的なコース状況の確認と必要箇所の補修

長引くコロナ禍において、立ち止まることなく着実に前進できた。

今後 に向けて

- ◇2022年度は「合同会社南山城観光」との協働により、一般向けウォーキング企画の頻度を高め、多様なニーズに応じたイベントやプログラム開発を実施したい。
- ◇その為にも利用者アンケートによる効果検証やマーケティングを強化したい。
- ◇地域活性化、交流人口増加へと繋がるビジネスプランの検討に取り組んでいきたい。
- ◇地元関連団体とのネットワークの構築に取り組み様々な提案を行いたい。
- ◇「南山城村役場」「相楽東部未来づくりセンター」の更なるご理解、ご支援を引き続きお願いしたい。

村長への報告

村長への 報告会

1. 教職員と学生による活動報告と懇談会を毎年実施

- ①1年間の活動報告(横山ゼミ・プレッパーズ部)
- ②懇談: 村長⇒評価や新たな課題など
学生⇒成長や成果、今後の支援などの要望



懇談事項

【村長から】

- ・イベントでの学生たちの奮闘ぶりについて高評価をいただいた。
- ・村長自らウォーキングコースを歩かれた感想として、休憩スペースがほしいと要望された。
- ・ゲーム感覚でウォーキングを楽しめるような観光コンテンツも面白いと評価された。
- ・今後も様々な商品開発やプログラム開発を期待された。

【大学から】

- ・地元の観光事業者の協力や意見交換、協働作業等、新たな取り組みができた。
- ・4年間活動し事業としての成功を実感できた。
- ・本プロジェクトは就職活動でも高く評価された。
- ・卒業生も含めた活動拠点となっていくことが理想で多方面での更なる支援をお願いした。

学生の成長と評価

成長

1. PBL(実践)からの成長

- ①学外関係者との協働を経験し、責任感と感謝の気持ちを養うことができた。
- ②イベントマネジメントを経験し、緊張感と達成感などリアルなビジネスを学ぶことができた。

2. 組織間交流からの成長

- ①ゼミ内でのプロジェクトとしてだけでなく、プレッパーズ部、高見ゼミ(スポーツ行動学科)、加藤ゼミ(短大ライフデザイン学科)の学生達と活動を共にすることで、社会で必要とされるコミュニケーション能力や協力する力を養うことができた。

評価

【相楽東部未来づくりセンター副センター長】

・学生が入れ替わる中、一過性の取り組みに終わらず相楽東部の活性化の大きな成果となった。イベントでは「おもてなし」の気持ちで対話をしてくれていたことが一番嬉しかった。

【合同会社南山城観光】

・参加者アンケートに、大学生のみなさん(スタッフ)と一緒にウォーキングができて、とても楽しかった様子が記されており、ホスピタリティの高さが、参加された子どもたちや保護者の良い思い出づくりに貢献し、印象深かったものと感じ、心から感謝申し上げたい。

【地域協働センター長】

・6年目で初めて一般の方を対象としたイベント成功させ高評価を得たことは感慨深い。

【教員】

・学科のリサプロⅢ発表会で表彰され、教員や学生からも貴重な意見をいただいた。
コロナ禍でも意欲的に挑戦し、高評価や成果を残したことは大きな自信となり必ず今後にかされる。